

あぶらしっこ

支部長 笠井ひで子（昭44年卒）

山形には標準語にない言葉がたくさんあります。「やばつい」「たらづぐ」etc.

「あぶらしっこ」は、みそっかすに似て非なる言葉。年少者にハンディをつけて一緒に遊べるようにすること。以前乙武洋匡さんの「五体不満足」で「乙ちゃんルール」というのを読んだとき「あぶらしっこ」だ、と思いました。おおらかなこの言葉、年齢の異なる近所集団で遊ぶことのなくなった今は、死語になってしまっているのでしょうか。

同窓会ではこれでもまだ「若い」と言われておりますが、新卒生も交えますと支部総会参加者の平均年齢を上回る年になりました。パソコンやスマホ、ややこしくなったテレビのリモコンなど便利なはずの道具を使いこなせず、戸惑うことが増えてきました。

「使ってほしかったらもっと操作を簡単にしなさい」などと聞き直っておりますが、様々な機器を使いこなす若手役員や準備学年の事務処理の速さには驚かされることが多くなっています。

そういう時私は「あぶらしっこにしてもらおう」と思います。頑張ったところでものになりそうもないことはできる人に甘えてしまおう、その代り、誰かの苦手も受け入れようと。私にも得意なことはたくさんある、はずです。

非常に幅広い異年齢集団である同窓会は誠に面白い仲間たちです。経験も、考えも、好みも全く様々なのに山形、嚶鳴という共通点で結ばれ、長く続いていること自体すごいことだと思います。先輩、後輩に感謝です。ぜひまた総会でお会いしましょう。

記憶の断片

小倉 董子（昭26年卒）

昭和20年4月、第一高女に入学が叶ったが、前年の19年2月23日の放火事件により校舎は消失。師範学校の寄宿舎を改造した畳敷の部屋に長机を並べ、膝を寄せ合い正座しての授業だった。すり切れた畳から容赦なく襲いくる蚤たち、「打ちてし止まん勝つまでは」という標語に洗脳された少女たちは、無邪気に大騒ぎしながらも笑いが絶えなかった。

その頃既に4年生は山形や東京の工場へ動員され、2、3年生は近郊農家へ宿泊勤労奉仕に駆り出されていた。私たち新入生は、校庭や焼跡の土台の空き地を掘り起こし、大豆や南瓜、ヒマシ油の種を蒔いた。

堆肥の落ち葉集めは千歳山山麓まで出かけた。自然の恵みの芹や野蒜など、食べられるものであれば夢中になって採った。自然に触れ合い、心いやされるひとときだった。

4月15日、川崎大空襲に見舞われた動員中の教師1名と4年生5名の若い命が奪われた。学友に抱かれた白木の遺骨と怪我した先輩の列が学舎に帰還した姿は、いまなお目に焼き付いている。本土決戦のうわさが囁かれるようになった8月6日広島に、9日には長

崎へ原子爆弾が投下された。そして、15日には昭和天皇の終戦の詔書がラジオ放送で報じられ、長かった戦争に終止符が打たれたのだった。幸い山形市内は戦火を免れた。「今日からはぐっすり眠れる」それだけがうれしく、静まり返った街を少女たちは、喜びをあらわにすることもできず、家路へと急いだ。

戦後の最大の関心事は、校舎復興だった。父兄や先輩たちは、アメリカ軍政部や県知事への陳情、バザー、寄付金の調達、生徒大会、デモなど、自由という追い風を受けて動き始めていた。

一方では、軍政部からの新学制により、第一高女併設中学2年生となったが、再度の改革があり、23年には第四高校併設中学3年の証書が授与された。同年12月25日復興が決定。日飛跡地末広町に移転する。男女共学の採用によって、25年には第二高校と第四高校が統合され、波乱の6年間だったが、南高校第一期生として卒業した。

戦後の5年間は、個性豊かな教師との出会いに恵まれ、ソフトボール部や登山スキー部を創設。絵画部、演劇部にも所属。自由という嵐に後押しされての“模索”の青春時代だった。

□■□ 総会準備学年より

伊関美奈子(昭61年卒)

昨年11月、銀座某所に山形弁で騒いでいる一団が…。準備学年を務めるにあたり、同窓会名簿に載っている首都圏在住70人に声をかけ学年会を開いたところ、14名が集まってくれました。高校卒業以来26年振り、在学中は話したこともないメンバーもありましたが、高校時代を共に過ごしたという絆は強く、あっという間に旧知の仲のような一体感が生まれました。

総会当日はずっと私達の担任を務めていただいた山家貴代先生をお招きします。山家先生は当時双子のお子さんの子育て真っ最中で、西高に連れてきて廊下であやされていた姿が印象に残っています。

エンターテインメントは、これまでにない試みとして、出席して下さる皆さんと一緒に参加出来るものを企画しています。音楽に合わせて楽しく身体を動かしませんか?エクササイズと言っても、椅子に座ったまま上半身だけを使いますので、お召し物や履物に気を使うことなくいつも通りおしゃれをしてきていただいで構いません。もちろん東京嚶鳴女声合唱団にも出演をお願いしました!

楽しい会になるよう一同知恵を絞っておりますので、お誘い合わせの上是非ご参加ください。当日のお越しをお待ちしております。

平成24年度 活動報告

- 1月21日 新旧役員会/監査/引継ぎ
- 2月15日 第1回評議員会/役員・総会準備学年(60年卒)会
- 17日 総会準備学年打ち合わせ会
- 29日 東京支部プレゼンテーション(本部同窓会入会式にて)
- 3月31日 総会準備学年打ち合わせ・案内状準備
- 4月2日 第2回評議員会/役員・準備学年会
- 14日 第7回ウェルカムパーティー(於:銀座イルチエントロ)
- 5月9日 第3回評議員会/役員・準備学年会
- 26日 総会準備最終打ち合わせ(於:ホテルオークラ東京)
- 6月3日 嚶鳴同窓会東京支部総会
- 16日 役員会
- 19日 第4回評議員会/役員・準備学年反省会
- 10月17日 役員会
- 28日 総会準備学年引継ぎ会(60年卒から61年卒へ)
- 11月11日 嚶鳴同窓会本部総会

平成25年度 役員

| | | | |
|-------|---------------|----------------------|---------------|
| 東京支部長 | 笠井 ひで子(昭44年卒) | 顧問 | 遠藤 倭 久(昭30年卒) |
| 副支部長 | 中島 幸 子(昭50年卒) | 〃 | 田中 克 子(昭32年卒) |
| 〃 | 四津 明 美(昭54年卒) | | |
| 庶 務 | 佐藤 真理子(昭45年卒) | 平成25年度 総会準備学年 | |
| 〃 | 久保 ひろみ(昭46年卒) | 代表 | 伊関 美奈子(昭61年卒) |
| 会 計 | 鈴木 まゆみ(昭57年卒) | | 澤登 かおり |
| 〃 | 庄司 眞 理(昭58年卒) | | 古木 明 美 |
| 広 報 | 宮川 香 子(昭58年卒) | | 武部 美智子 |
| 監 査 | 小林 美穂子(昭29年卒) | | 中川 直 子 |
| 〃 | 須貝 行 子(昭48年卒) | | |

◇庶務・会計は、学年の順送りとなっており、当該学年より推薦されました。

◇顧問・監査については、支部長が選任いたしました。

お知らせ

- ◇ 住所や姓が変わられた方は、eメールで手続きができます。
 - ◇ ホームページに情報の掲載を希望される方、一筆箋やはがきの購入申し込みをされる方も、eメールをご利用ください。
- 同窓会のeメールアドレス dousoukai@oumei.jp

平成24年度 会計報告

支部長 笠井ひで子
 会 計 茂木ゆかり
 " 鈴木まゆみ

<一般会計>

| | |
|---------------|------------|
| 1.収入の部 | |
| 前年度繰り越し | 1,432,512円 |
| 年会費 | 1,017,100円 |
| 総会会費 | 2,925,000円 |
| 特別会計より補助 | 70,000円 |
| 本部より助成金 | 50,000円 |
| ご祝儀・寄付 | 100,000円 |
| 雑収入(郵貯利子) | 321円 |
| 計 | 5,594,933円 |
| 2.支出の部 | |
| 会議費 | 181,502円 |
| 印刷費 | 75,819円 |
| 事務用品費 | 54,249円 |
| 通信費 | 270,889円 |
| 渉外費 | 66,100円 |
| 役員・準備学年活動費 | 141,080円 |
| 備品 | 64,071円 |
| 雑費 | 4,600円 |
| 事業費 | |
| 総会 | 3,191,865円 |
| ウェルカムパーティー | 50,490円 |
| 東京支部プレゼンテーション | 5,000円 |
| ホームページ | 16,107円 |
| 計 | 4,121,772円 |
| 3.差引残高 | 1,473,161円 |

*1月~6月の運営費として、平成25年度へ繰り越し

<特別会計(一筆箋・はがき)>

| | |
|--------------|----------|
| 1.収入の部 | |
| 前年度繰り越し | 387,796円 |
| 一筆箋売上げ(196冊) | 98,000円 |
| 口座利子 | 89円 |
| 計 | 485,885円 |
| 2.支出の部 | |
| 総会事業補助 | 70,000円 |
| 計 | 70,000円 |
| 3.差引残高 | 415,885円 |

*次回印刷費として平成25年度へ繰り越し

<監査報告>

帳簿・領収書等を照合の結果、適正に行われていることを認めます。 会計監査 橋本節子、須貝行子